

あきたこまちRの栽培のポイント

～施肥試験から～



あきたこまち← | →あきたこまちR
写真 R6年6月24日撮影↑



あきたこまち← | →あきたこまちR
写真 R6年8月4日撮影↑

本日もほ場を公開しています。

作物部 作物栽培チーム

苗質と活着

R3～R6年 作柄解析試験等の結果より

苗質



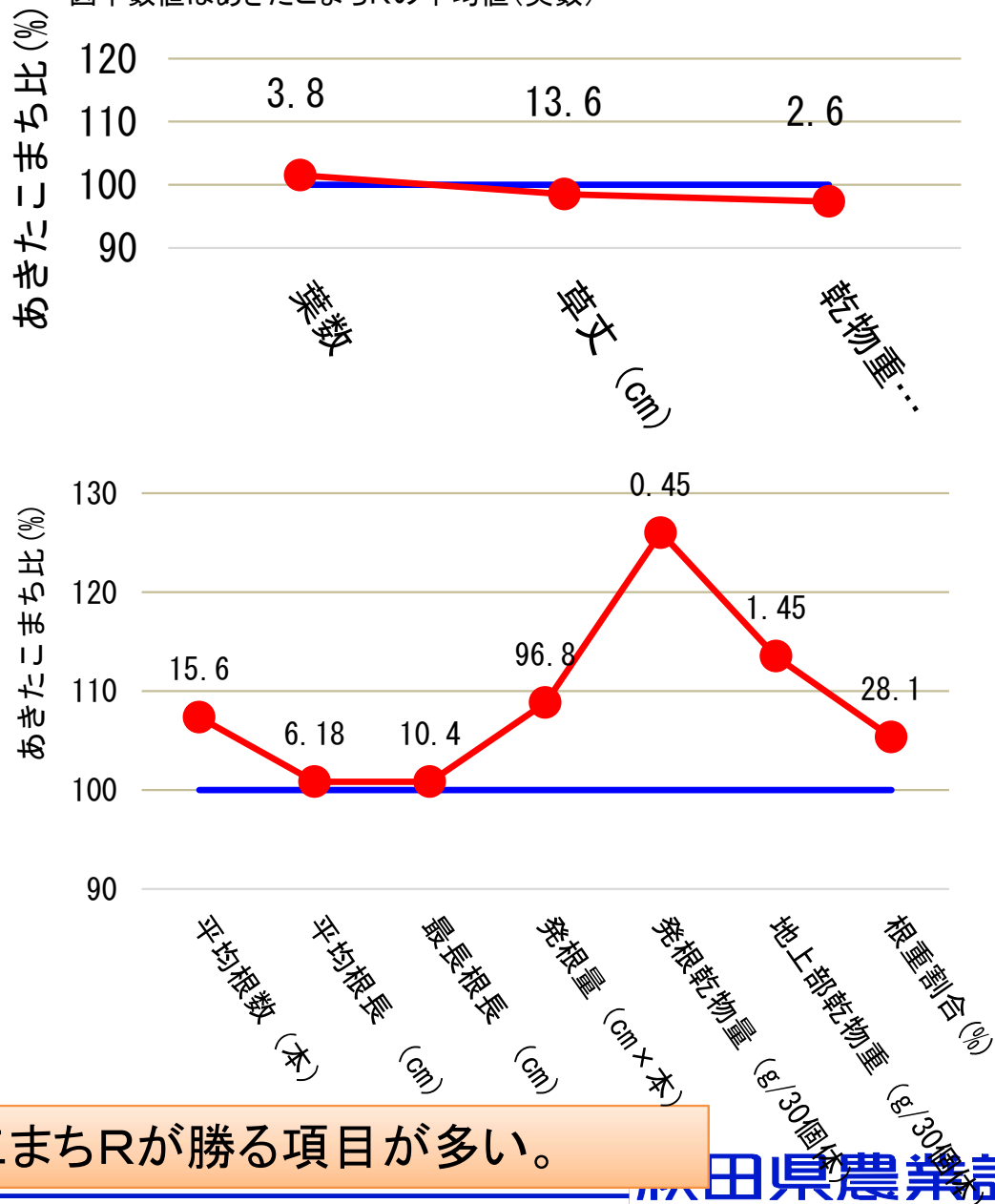
あきたこまちR ← | → あきたこまち

活着(せん根苗調査)



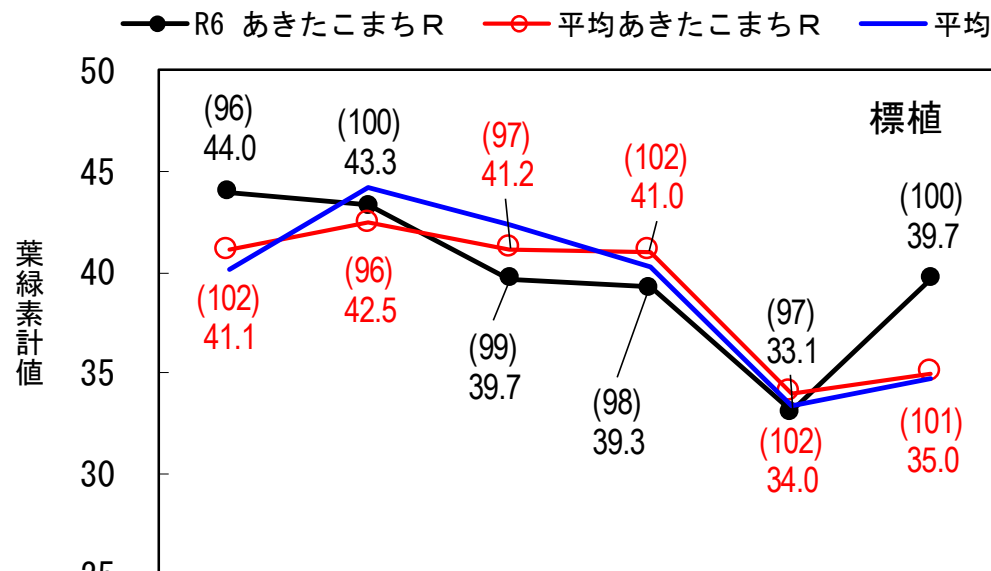
● あきたこまちR — あきたこまち基準=100%

図中数値はあきたこまちRの平均値(実数)



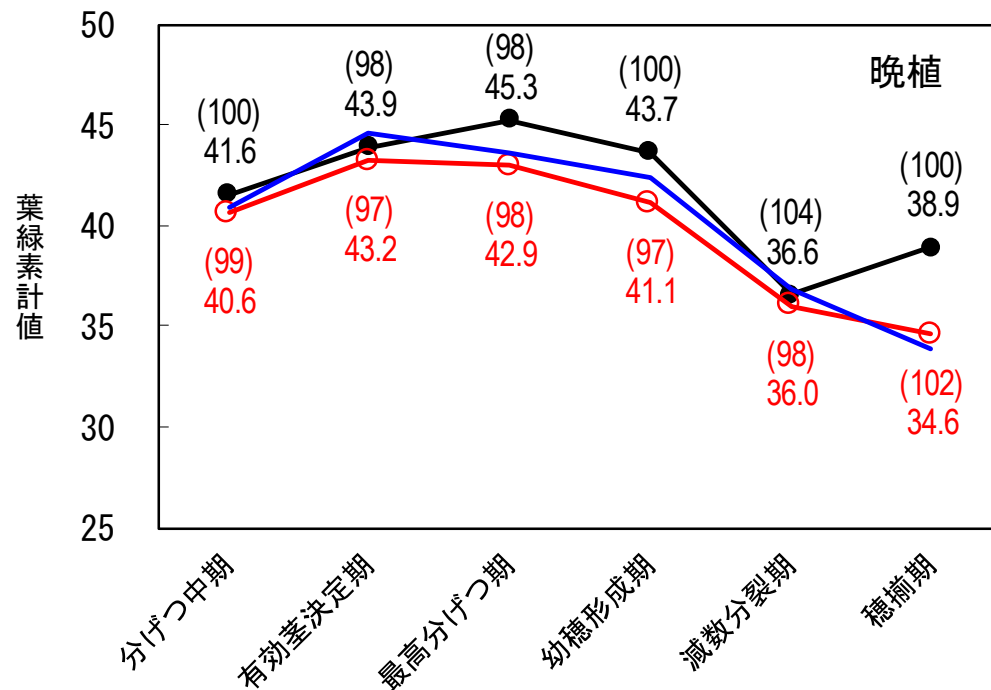
➡ 大きな違いは無し。あきたこまちRが勝る項目が多い。

R3～R5の平均 + R6年 生育の特性(葉色)



図中の黒字数値は、R6年あきたこまちR、
()内はあきたこまちとの比%を示す

図中 赤字数値は R3～R5年 作柄解析試験等の結果の平均。()内はあきたこまちとの比%を示す



- ・ 幼穂形成期頃までは、あきたこまちRは、**やや淡い**傾向。
- ・ 減数分裂期以降は、あきたこまちRは**やや濃く**推移する傾向。

収量と収量構成要素の比較

● あきたこまちR — あきたこまち基準=100%

図中数値はあきたこまちRの平均値(実数)

R3~5年全区平均

収量項目について、平均値をあきたこまちと比較すると、

- 全重や精玄米重などはあきたこまちとほぼ同等。
- あきたこまちRの屑米が多い。

収量構成要素について、平均値をあきたこまちと比較すると、

- あきたこまちRの穂数ならびに全粒数は多い。
- 他の項目はあきたこまちとほぼ同等。

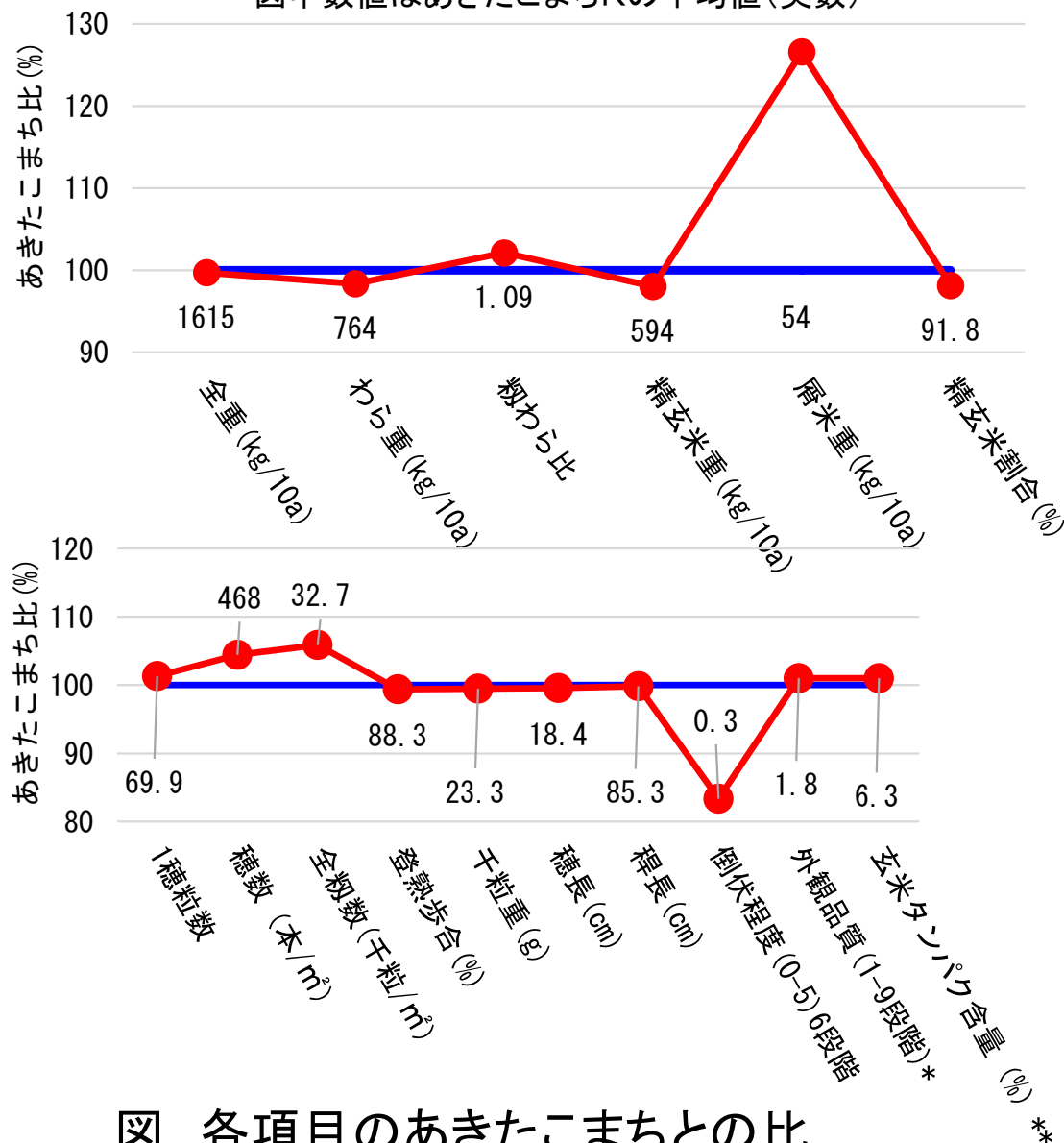


図 各項目のあきたこまちとの比

施肥各試験

耕種概要

中苗(乾籾100g/箱、35日育苗)

栽植密度 20.6株/m²(70株/坪)

1株4本程度

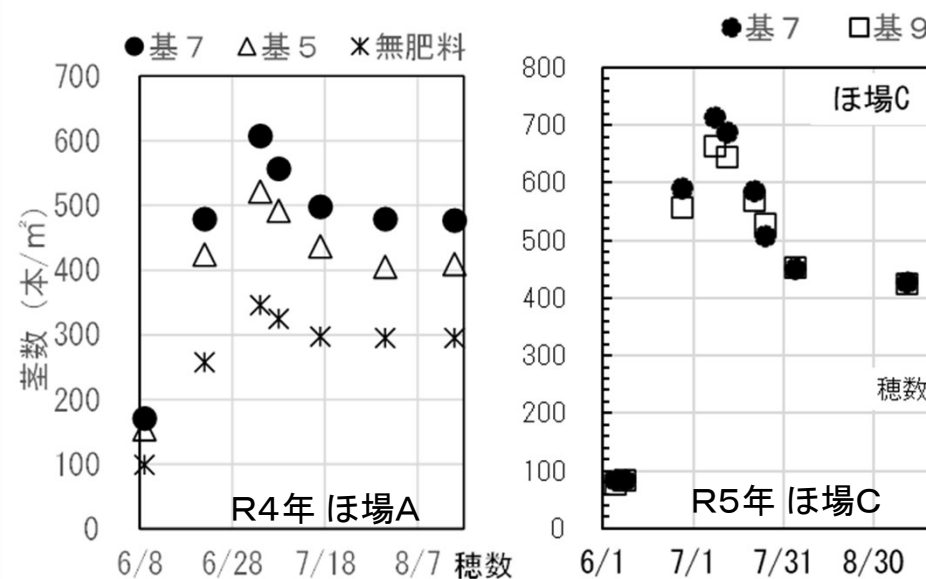
移植日 R3: 5/17、R4: 5/13、R5: 5/22

試験区の構成(施肥反応)

区名	基肥N量 kg/10a	追肥N量 kg/10a	
		幼穂形成期	減数分裂期
基5	5	—	—
基5幼2		2	—
基5減2		—	2
基7	7	—	—
基7幼2		2	—
基7減2		—	2
基9	9	—	—
基9幼2		2	—
基9減2		—	—

試験区の構成例(施肥体系)

R4年試験 区	基肥N量 kg/10a	追肥N量 kg/10a	
		幼穂形成期	減数分裂期
基5幼1減2	5	1	2
基5幼2減2		2	2
基7幼1減2	7	1	2
基7減2		—	2



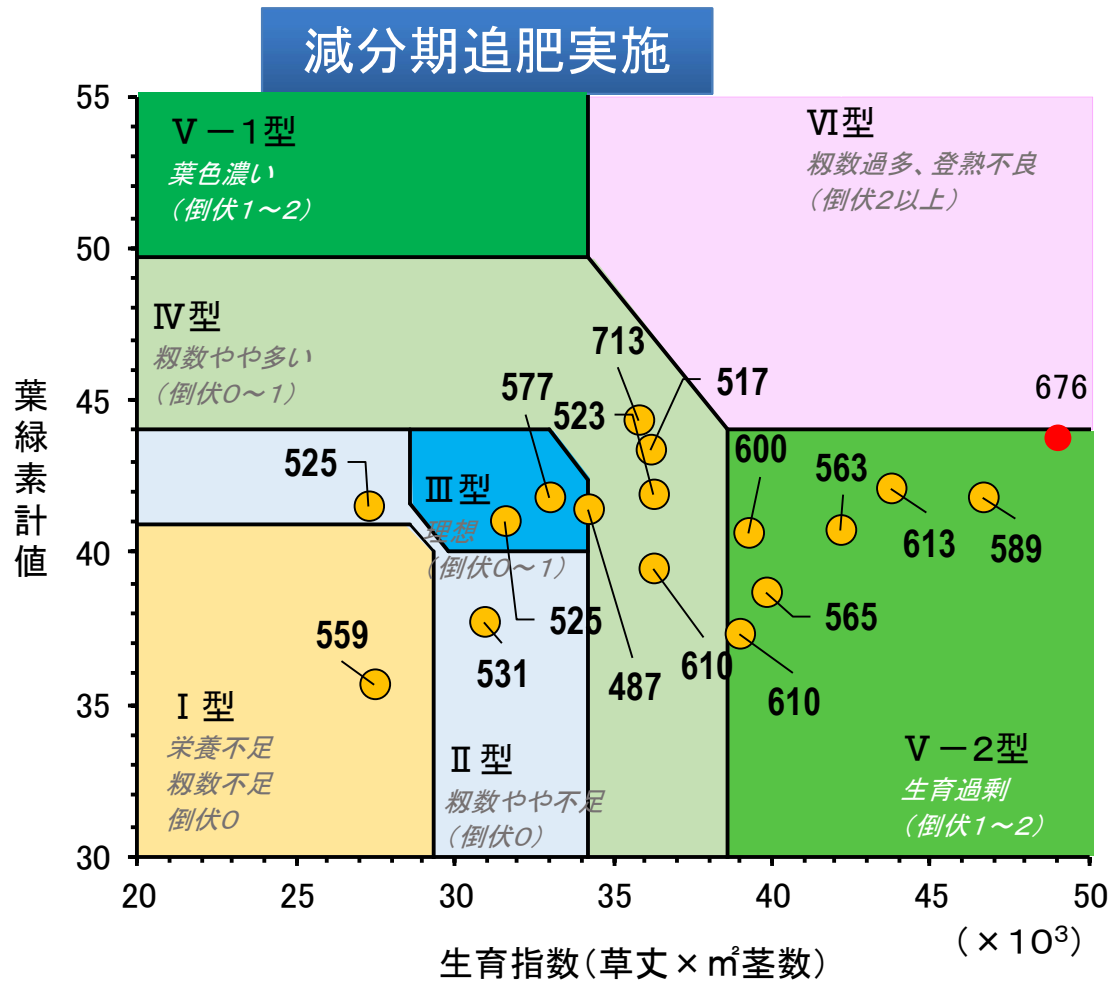
基肥量は、

※ほ場の地力、土壌条件(肥ギレし易い、排水不良など、)を考慮するものの、
幼穂形成期前後に葉色を低下しすぎない程度の施肥が、適正な施肥量と推定。

→あきたこまちと同様な施肥対応。

幼穂形成期頃の「あきたこまちR」の生育、栄養診断

検討: あきたこま치의生育、栄養診断を「あきたこまちR」に適用可能か



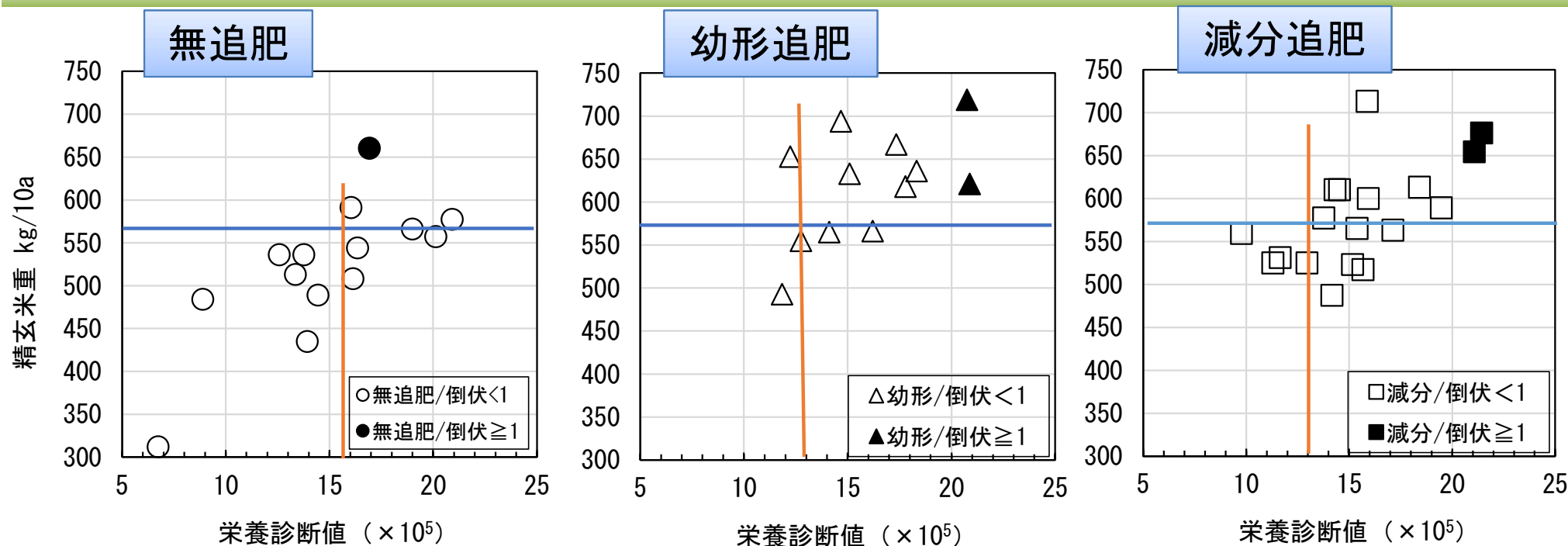
幼穂形成期時の生育診断による追肥判定基準
(あきたこまち、目標収量570kg/10a)

生育型	窒素追肥量(kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2kg	2kg
II型	2kg	2kg
III型	ムラ直し1kg	2kg
IV型	なし	2kg
V-1型	なし	ムラ直し1kg
V-2型	なし	ムラ直し1kg
VI型	なし	なし

幼穂形成期における栄養診断(中央)

留意; R3~R5年は、倒伏が少ない年だった。またR4, R5は作柄不良年だった。

「あきたこまちR」の栄養診断値と追肥、収量の関係



栄養診断値(幼穂形成期の草丈 $\times$ m^2 茎数 $\times$ 葉緑素計値)と時期別追肥と収量の関係から
幼穂形成期頃の栄養診断値が13($\times 10^5$)程度あると目標収量570kg/10aを
確保し易い(※無追肥区は別扱い)。 → 「あきたこまち」の栄養診断値の目安
も同程度。

追肥の対応 → あきたこまちと同様な施肥対応。

◎収量の安定確保の重要な条件： m^2 茎数を十分に確保している生育であること

あきたこまちRの栽培のポイントとは

★ あきたこまちの栽培方法が基本

あきたこまちと比較して(現在、わかっているところ)

- ・生育ステージ: ほぼ同等(±1日程度)。
- ・生育: 草丈は同等。茎数やや多い。葉色は生育前半は淡く、後半は濃い傾向。
- ・精玄米重: ほぼ同等。
- ・収量構成要素: 穂数やや多く、全粒数多い。屑米重多い。千粒重同等。
粒厚分布は大粒区分が少ない。

肥培管理の調整/見直し

- ✓ 現在の「あきたこまち」の生育が、ほ場に合った生育で推移しているか。
- ✓ 理想的な収量構成を確保できているか。

◎ 加えて、近年の気象の傾向(高温化、気象変化大)に適応しているか。

イネ作りの再チェックの時期にきています。